

オフィスのトレンド

自分たちのオフィスを実験場にすることで生まれる
「働きやすさ」「業務効率」「環境」への新しい提案

森ビル株式会社 MORI WORKING LAB



森ビル株式会社
常務取締役
吉森 進氏



森ビル株式会社
建物環境開発事業部
内装部部长
佐藤正貴氏

森ビル株式会社は2009年10月28日、新しいワークスペースの提案を目的とした実験場「MORI WORKING LAB」をオープンさせた。六本木ヒルズ森タワー内にある建物環境開発事業部（人数:約110名、面積:約300坪）のオフィスを改装したもので、職場として使用しながら「ワークスタイルの革新」「快適性・効率性の向上」「環境対応」のための実験と効果検証を繰り返している。火曜と木曜の公開日には多くの見学者があるなど、企業側の関心はかなり高いようだ。



オフィス内全景

■ オフィスとワークスタイルの進化は切り離せない

——「MORI WORKING LAB」を開設された理由と経緯について教えてくださいませんか？

佐藤 10年、20年という単位でオフィスに関する変化を見ていくと、パソコンの普及に伴ったペーパーレス化による書類の大幅削減や新しい建築技術による無柱のフレキシブルな大空間が生まれるなど、「ツール」と「場」の環境が大きく変わってきています。ところが振り返ってオフィスの使い方を見ると、窓際に役職者が座り、そこからヒエラルキーに従って机が並ぶ島型対向のデスクレイアウトを相変わらず続けているケースが多い。恥ずかしながら、私たち建物環境開発事業部のオフィスも、つい最近までそうだったのです。

—— オフィスのスタイルを変えるのはそれだけ難しいということですね。

佐藤 何度か変更を考えましたが、「場」をちょっと変えるだけでは、結局、便利な島型対向スタイルに勝てない。そこで、進化を続けるオフィスにふさわしいワークプレイスとはどういうものかと考え続け、ワークスタイルそのものから見直していかないとオフィスも変わらないという結論に達したのです。

—— 働き方とオフィスは相関関係にありますからね。

佐藤 そこで、最初に綿密な業務分析を行いました。その結果、スタッフの在席率が最大でも71%、最低は37%と予想より席のシェアリングの可能性があることが分かったのです。建物環境開発事業部の社員は外出での打ち合わせが多く、さらに工事現場に足を運ぶことが多いためこのような数字になったのでしょう。また、すべての職種の社員に共通なのですが、一つの作業に使っている時間はせいぜい1時間半。2時間以上にわたって集中して同一の作業を行っていることはないということが明らかになりました。これは大きな発見でした。

一方でワーカーたちにオフィスの改善点を聞くと、求めるものが多様化していることがわかりました。つまり問題の一つを解決しても大多数の不満が残ってしまうのです。

—— オフィス改革として行ってきたことの中には、こういう「モグラ叩きゲーム」みたいなものがあったのかもしれない。一つ問題を潰しても、また別の問題が発生してしまう。

吉森 その解決できなかったことが、古いオフィススタイルを打破できなかった理由かもしれません。そこで、実際に自分たちの職場を実験場にして新しい試みにいろいろ挑戦しながら、ベストなワークスタイルを検討していくことにしたのです。

■ 多様な「働き方」を2時間ごとに選べる新オフィス

—— そして始められたのが「フリースタイル アドレス」ですね。

佐藤 島型対向の固定席から変革していくステップとして、これまでは多様な働き方に対応したアクティビティセッティングと移動の自由度を高めたフリーアドレスといったスタイルが導入されてきました。しかしこれらの方法も解決できる問題は限られ、ワークスタイルの進化にはつながりにくいところがあります。このため、多様なワークプレイスで自由度の高い空間を実現する「フリースタイル アドレス」を考えました。

—— どんなレイアウトですか？

佐藤 オフィス内には事務処理に向くフリースタイルデスク、大判書類を広げやすい台形のファンテーブル、打ち合わせも個人作業もできるフラスコ（フラスコ）テーブル、気軽に会議が始められるファミレススタイルのボックスシート、立ち姿で短い打ち合わせを行う10ミニッツミーティング、集中作業用のブースシートなど、12種類のワークプレイスを最適な場所に設置しました。コミュニケーションエリアを開放感のある窓側に設け、それによって役職者の席は窓側からビルのコア側に移動しましたが。



ファミレススタイルのボックスシート

—— 役職者からの反発はありませんでしたか？

佐藤 役職者の席は決まっているものの、「フリースタイル アドレス」の対象となる社員は2時間ごとに自分の座る席を予約し、業務内容に合わせた場所で仕事ができますから、ヒエラルキーによる「場」の縛りはまったくといっていいほど無くなっているのです。当然、役職者も納得してくれています。

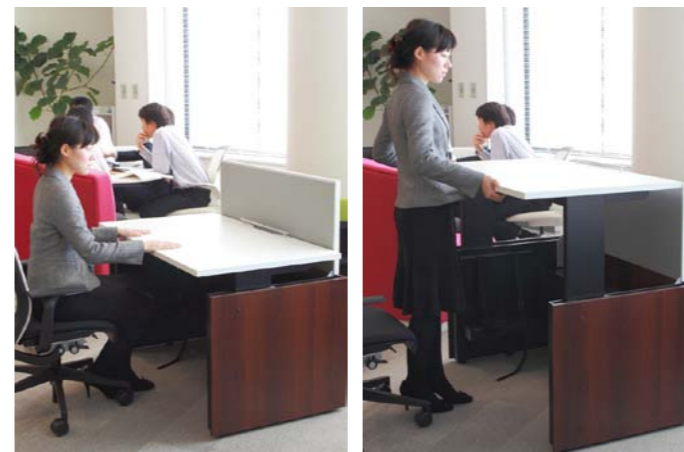


2時間ごとに自分の座る席を予約するシステム

—— 席を移動しない社員もいるのですか？

佐藤 職種により固定席の社員もいます。ただしそういう人に対しても新しいオフィスツールを使ってもらうことで、ワークスタイルの改革を進めています。

今回のポイントの一つがフリースタイルデスクです。天板の高さを700～1150mmまで自由に昇降できるので（普通のデスクは可変式のものでも700～900mm）、腰痛持ちの人にも喜ばれています。（笑）九州大学の教授に、このフリースタイルデスクの効果測定をお願いしたところ、使用してい

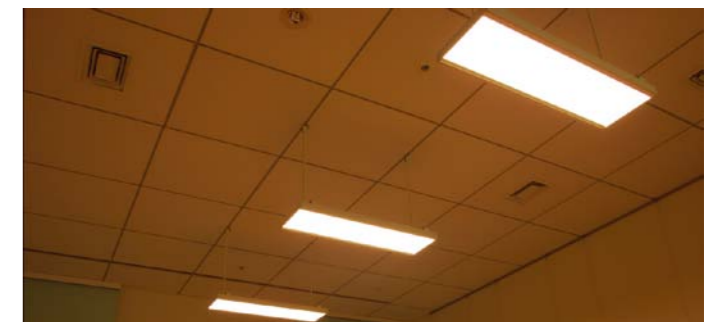


天板の高さを自由に調節できるフリースタイルデスク

る人は使用していない人に比べて下腿周径が変化していない、すなわち浮腫みが少なくなっているという結果が出たんです。

とにかく、席を移動する人にもしない人にも、モチベーションをあげる為の工夫をたくさんしました。自分の席が小さくなったこと以上のメリットを、ワーカーに与えるようにしたのです。

佐藤 その他、オフィスのコーナーごとに電力使用量と内容がわかる独自の「見える化システム」、上下に照射できる新しいオフィス用LED照明、空



上だけ照射したときと下だけ照射したときの比較

間に変化をつける木の葉照明、ホワイトノイズを環境音で話し声を響きにくくするサウンドマスキング、壁にかけられるだけでさまざまな音域の吸収を可能に



さまざまな音域の吸収を可能にした調音システム

する調音システムと、「MORI WORKING LAB」では10種類以上の新製品や新技術を紹介しています。

吉森 「MORI WORKING LAB」では、私たち自らさまざまなワークスタイルを企画・実践し検証を繰り返しながら、効果的で社員のモチベーションの上がるワークスタイルを創ろうとしています。

その中から、テナントさんに喜んで利用してもらえる生産性向上を目指すワークプレイスの提案や、それを補完する商品開発を継続していくつもりです。

「MORI WORKING LAB」の詳細説明資料はここでご覧いただけます。
<http://www.mori.co.jp/company/press/release/2009/10/20091028130100001756.html>

見学などのお問い合わせは以下にお願いします。
森ビル株式会社 広報室
TEL:03-6406-6606 FAX:03-6406-9306
E-mail:koho@mori.co.jp